

# 「親の影響」はいかにして語られるか

## ——高校教員の回顧的な語りの分析——

東京大学大学院 布川由利

### 1 目的

本報告の目的は、インタビューデータの分析を通して、ある人物の進路選択について説明するなかで、本人の親の影響を述べるのがいかなるやり方によって為されているかを明らかにすることである。階層移動研究では、本人の到達階層を説明する要因の一つとして親の学歴や職業のほか、親の教育期待が用いられることがある。例えば Sewell et al. (1970) は、親や友人といった「重要な他者」による教育期待が、本人の教育達成・到達階層に強く影響するとし、その影響を分析している。この報告ではこうした先行研究による知見を念頭に置きつつ、インタビューデータの分析を通してある人物の進路選択に対し親の期待や意思が影響していると説明する、(社会学者ではない) 普通の人びとのやり方の一つを提示することを目的とする。

### 2 方法

この報告では、2014年に行なわれた高校教員を対象としたインタビュー調査から、関西圏にある高校の教員 B の語りを分析する。本報告で特に取り上げるのは、過去に経験した進路指導のうち、特に「難しかった」事例の提示を調査者から求められた B が、過去に指導した経験のある生徒の事例について調査者に向けて語っているものである。分析では、特に B が親に関する話を持ち出すとき、その親の話題がいかなる意味を持つように語りが編成されているかに注目した。

### 3 結果

B は、はじめに生徒が希望している進路(医学部進学)が本当にその生徒の希望なのかが「わから」ないとし、生徒についての情報(「偏差値も 29 くらいしかない」)を語った直後に、その生徒の母親による特徴的な発言や振る舞い(面談で医学部受験雑誌を持って来て目の前に置かれる、など)を取り上げている。ここで B は、生徒本人の意思を疑う十分な理由を挙げることで、生徒がなぜ医学部を希望しているのか、その理由を探索する機会を与えている。そしてそこで、母親の特徴的な発言や振る舞いを取り上げることで、その生徒の進路選択が、実際には生徒本人の意思によるものではなく、母親の意思であることが理解できるように、語りを組み立てている。また、生徒本人の意思が不明確で、かつ母親の意思が(過剰に)強いことを語ることで、B はその事例の“難しさ”を説明していた。

### 4 結論

人びとがある人物の進路選択を語るなかで、親の期待や意思に言及することは、本人の選択がどのようなものであったかとは切り離しえないことがわかる。B の語りでは本人の進路選択の理由が探索される機会が与えられてから母親の振る舞いが言及されることで、母親の意思が本人の選択に対して「影響」を持っていることが理解可能となっていた。この報告で示したのは、そうした「親の影響」を説明する一つのやり方であり、またそうしたやり方によって語られた説明が社会学者による説明と同様に合理性を兼ね備えている、ということである。

### 文献

Sewell, W. H., A. O. Haller, and G. W. Ohlendorf, 1970, "The Educational and Early Occupational Status Attainment Process: Replication and Revision," *American Sociological Review*, 35(6): 1014-1027.